

大蛇まつり

時曾根と歩く

匠 探訪

— 69 —

1月から2月中旬にかけて市内でも地域ごとに行われている。な年中行事が行われています。

2月8日は「事八日」とよばれ、この日が1年の農事始めの日と考えられ、節分と同様に春を迎える行事が行われています。

時曾根区(豊栄地区)では、この日集落への3か所の入り口



ワラで作られた大蛇 (時曾根区)

にワラで作った大蛇をつるす「大蛇まつり」が行われます。

時曾根村の成立はおよそ400年前と考えられ、1745年の記録には家数15軒・人数99人・馬6匹とあります。1628年に飯倉村の主税という人が新田開発し、「時曾根村」と名付けたとする説もありますが、支配の記録からもそれ以前に集落ができていたことは確かです。

1832年の記録によると、集落周辺の開墾が1700年以降に進められ、村高が倍に増えたとされていますが、人数65人・馬4匹と84年前に比べ減っていました。領主への年貢米は、現物納で野尻(銚子市)まで馬車で運び、そこから利根川を上り舟便で江戸に運んだとされます。農閑期に男は縄やムシロを編み、女は木綿稼ぎをしていた、と当時の農民

の暮らしが知られます。

同村は当時の平均的規模の村より小さかったことで、現在の会所跡にあったと見られる吉広寺という寺も小庵のようなもので、鎮守も飯倉境の母子(横芝光町)の子安様にお参りしていました。そうしたなかで、村びとたちは1700年代には「庚申講」「十九夜講」「光明講」などを作り、一体感をもって暮らしてきました。そして2月8日に村の入り口に大蛇をつるし、村内に悪霊などが入らないようにと、1年の平安を祈る行事が続いているのです。

筆者が市内の集落に伝わる伝統行事の調査を始めた40年ほど前、この行事については特に呼び名がなく、県内では同様のものが、「辻切り」「道切り」などと呼ばれていました。しかし、地域の長老とされる人たちと語り合うなかで、「時曾根の大蛇まつり」と名付けることにし、新聞などに話題を提供しました。それから10年ほどして県内の出版物などに掲載、紹介され知られるようになり、当時を思い起こすと感慨深い行事といえます。

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080